中学校 国語科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約することができる。

⇒ **思考力，判断力，表現力の育成**

□　学　　年　　第１学年

□　単 元 名　　情報を読み取ろう「『音読のすすめ』リーフレットを作ろう」

□　教 材 名　　「脳のはたらきを目で見てみよう」川島隆太（東京書籍）

□　言語活動　　音読の大切さを小学生に伝えるためにリーフレットを作るという言語活動を通して，文章中から目的に応じて必要な情報を取り出し，要約する力を付ける。

□　本時の目標　　音読についての必要な情報（図，関連した説明）を取り出し，図に対応した補足説明を考えることを通して，文章を事実と筆者の考えとに読み分け，必要に応じて要約することができる。

□　学習の流れ（３時間目／全６時間）

《前時までの学習内容》「音読がなぜ必要か。」という目的をもって本文を読み，音読すると脳が最も活性化することを確認した。そして小学生に音読の大切さを伝えるリーフレットを作成する活動を設定した。本時はリーフレットに掲載する必要な図を選び，その図の補足説明を書く学習である。※単元末で小学生にリーフレットを紹介。

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　本時の目標を確認する 小学生に音読の大切さを伝えるために，必要な図と説明を取り出し，図の補足説明を書こう。		
２　音読の大切さを伝えるために必要な図と説明を取り出す。 ○　必要な図を選ぶ。 ＜生徒の反応＞ ○　音読時の脳の活動図が必要 →音読すると脳が活性化することが分かるから。 ○　音読時の脳の活動図と黙読時の脳の活動図が必要 →比べるものがないと音読が一番活性化すると言えないから。 →黙読でもよいと考える小学生が多いから。 ○　上の二つの図と脳の各部分と機能の図が必要 →なぜ，活性化するのか説明する時に必要だから。 →活性化している脳の部分を具体的に説明する時に使えるから。	・10 種類の図の中で，選んだ図がなぜ必要なのか考えさせる。	
○　選んだ図に対応する説明の内容を確認する。 ○　班内で交流し，全体で確認する。 ３　図の補足説明を書く。	・図を説明している文章から事実（脳のどの部分がどのくらい活性化しているか）と筆者の考えを取り出させる。 ・モデル文を示し，補足説明の役割を確認させる。 ・必要な情報を本文から取り出させ，まとめる手順や分量を示し，要約させる。	・文章を事実と筆者の考えとに読み分け，必要な図と説明を取り出し，それを要約して補足説明を書いている。〔読むこと〕（行動観察，ワークシート）
４　本時のまとめと次時の確認をする。	・次時で本時の学習を踏まえながら，「私が音読をすすめるわけ」を考えていくことを確認する。	

指導のポイント

目的に応じて必要な情報を取り出させる

■　学習活動２において，本文中から必要な図を選ばせる際には，図を説明している文章を事実と筆者の考えとに読み分けさせてその違いをとらえさせた上で，この図がリーフレットの目的に合っているか判断させましょう。

＜生徒の思考＞　※図と説明の関連を考えさせながら読み取らせ，目的に合っているか，他に必要な情報はないかを考えさせます。

音読時の脳の活動図が必要だ。 → この図の説明には，事実→脳の７０％が活性化する　筆者の考え→文字言語と音声言語のシステムの両方を同時に使うから活性化すると書いてある。 → リーフレットでは，音読の大切さを伝えるのだから，音読すると脳が活性化することがよく分かるこの図が必要だ。 → この図も必要だが，黙読時の脳の活動図も取り上げ比較すると，より音読の大切さが分かる。

目的に応じて要約させる

■　学習活動３において，「音読の大切さを伝えるリーフレットに掲載する図の補足説明を書く」という目的を明確にしましょう。また，必要な情報を本文から取り出しまとめる手順を教えましょう。

補足説明を書かせる手順

①　モデル文を示し，補足説明の役割を確認させる。

②　本文中の説明から，図だけでは分からない情報でしかも音読の大切さを伝えているという情報を取り出させ，一つの内容を一文にまとめさせる。

例
○音読時は，大脳の７０％以上もの神経細胞が働く。
○脳が黙読時よりも広い範囲で活性化している。
○音読は，文字言語と音声言語の二つのシステムを同時に使う。
○二つのシステムを同時に使うから，これほどまでに活性化すると考えられる。

③　補足説明の分量を示し，それに合うように②をつないでまとめさせる。

補足説明の例　※100 字程度でまとめさせる。
音読時の脳は，黙読時より広い範囲の大脳の７０％以上が働き，活性化しています。これは，音声言語のシステムと文字言語のシステムの両方のシステムを同時に使うからと考えられています。

＜リーフレットの例＞

音読のすすめ
図１　脳の各部分と機能の図
図２　黙読時の脳の活動図
図３　音読時の脳の活動図
図２と図３の説明
私が音読をすすめるわけ

新学習指導要領では

（１）の指導事項を（２）の言語活動例を通して指導することを一層重視

○　今回の改訂において，各領域では，国語の能力を調和的に育て**実生活で生きて働くように，それぞれの領域の特性を生かしながら生徒主体の言語活動を活発にし，国語科の目標を確実かつ豊かに表現できるように内容を改善**しています。各学年の内容の指導に当たって，**（１）の指導事項を（２）の言語活動例を通して指導すること**を一層重視しています。

○　本事例では，「音読のすすめ」リーフレットを作るという目的で，本文中から必要な図と説明を選び，図の補足説明を書く活動を設定しています。目的をもたせることで，**主体的な読み取り**になります。また，必要な図と説明の関連を読み取ることで，**文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分けること**ができるようになります。図の補足説明を書くことで，**目的や必要に応じて要約すること**ができるようになります。

中学校 社会科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　地形や輸送手段等に着目して，工業団地ができた理由を多面的・多角的に考え，地形図や分布図を用いて根拠や解釈を示しながら説明することができる。

⇒ **思考力，表現力の育成**

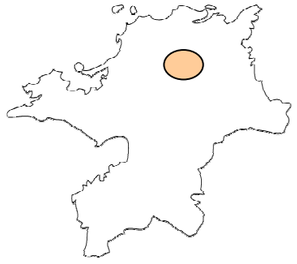
□　学年　　第２学年

□　単元名　九州地方の産業（地理的分野）

□　本時の目標　筑豊地方の工業生産物や生産高の変化を読み取ることを通して，筑豊地方でＩＣなどの小型・軽量な製品の生産が盛んとなった（地方的特殊性）理由を，歴史的な背景，地形（自然的条件）や輸送機関（社会的条件）等との関係から考察し説明することができる。

□　学習の流れ（４時間目／全６時間）

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　本時の学習課題を確認する。	・ぼた山の写真と石炭産出量のグラフをもとに，北九州工業地帯の学習で学んだ筑豊地方の多くの炭鉱が閉山されたことを確認し，現在の様子への関心を高める。 ・エネルギー革命の概要を説明する。	
筑豊地方の工業生産の変化の様子をとらえ，その理由を考えよう。		
2　筑豊地方の工業生産の変化をとらえる。	・1960年頃と2005年頃の筑豊地方の土地利用図を比較させる。 →炭鉱だった場所が，工業団地やＩＣ工場になっている。高速道路ができている。 ・ぼた山に隣接する工業団地の写真を示し，変化を実感させる。	
3　筑豊地方に工業団地ができた理由を考える。 	・これまで学習した工業地域の立地条件とその理由（地理的な見方や考え方）をカードで確認させる。 ・筑豊地方の工業団地の企業（業種）一覧を提示する。 →軽量・小型の製品を製造する企業が多い。 ・工業地域の発展についての既習の見方や考え方を活用させ，地図を活用して話し合わせる。 →内陸部で大型船舶を使うことはできないため，大きくて重たい製品を輸送することは難しい。 →周辺に高速道路が整備されていて，トラックでの輸送に適している。 ・話合いの内容を踏まえ，筑豊地方に工業団地ができた理由をワークシートにまとめさせ，説明させる。	・筑豊地方に工業団地ができた理由を地形や輸送手段等と関連付け，地形図を活用して説明している。〔社会的な思考・判断・表現〕（ワークシートの記述）
4　本時のまとめを確認し自己評価カードに記入する。		
5　次時の予告を聞き課題を確認する。	・九州地方でＩＣ工場が多く集まっている地域を地図帳で調べ，印をつけておくよう指示する。	

指導のポイント

地理的事象を羅列的に提示するのではなく，「事象間の関連」を考察させる

■　地理的事象を羅列的に示すのではなく，「そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか」「なぜそのように分布したり移り変わったりするのか」等の問いにより考察させることによって，事象間の関連や地理的事象に関する法則性や概念が習得でき，地理的な見方や考え方の基礎を培うことができます。

・筑豊地方には炭鉱がありました。
・今は高速道路が整備されています。
・工業団地で生産されているものは，アルミサッシ，即席ラーメン，それから…

工夫

なぜ，筑豊地方にこのような工業団地が見られるのだろう？

〔学んだ見方や考え方を生かす〕

確か…
「工業地帯は，海の近く」，「工業製品は船を使って運ぶ」って習ったよ。

内陸部には精密機械が発達していたわ。

地図を見ると，近くに高速道路や幹線道路が整備されているよ。

この工業団地の製品は，小さくて軽いものだし，輸送先は国内だから，輸送にはトラックが便利よ。

工業地域周辺には，その工業に適した輸送機関が整備されているんだ！

これまでに学習した地理的な見方や考え方を用いて，事例地域を考察させることにより，生徒の地理的な見方や考え方を深めることができます。これまでの学習を振り返り，**「工業地域はどんなところに発達していたか。また，それはなぜか。」ということを確認し，本時の学習に生かすことが大切**です。

そのためには，単元のまとめ等の時間において，生徒に学習した見方や考え方を，その理由とともにノートにまとめさせ，指導者はカード等に整理していくと活用しやすくなります。

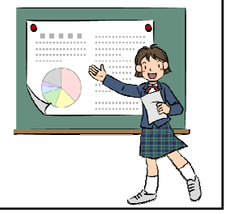
地図を活用させる

■　地理的事象を位置や空間的な広がりのとのかかわりでとらえ，それを地域の環境条件や他地域との結び付きなどと関連付けて考察させるには，地図の活用が欠かせません。また，**考察した結果を分布図や地図を用いて説明し合う活動を取り入れることで，生徒は根拠や解釈を示しながら自分の言葉で説明できる**ようになります。

新学習指導要領では

言語活動にかかわる学習を一層充実

○　今回の改訂では，社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って，言語活動にかかわる学習の一層の充実が示されました。地理的分野では，**「地図を有効に活用して事象を説明したり，自分の解釈を加えて論述したり，意見交換したりするなどの学習活動を充実させる」**ことが示されています。



○　本事例では，筑豊地方に工業団地が立地した理由を，主として製品と輸送機関との関連について，**これまでに学習した地理的な見方や考え方を活用し，地図を用いて考察させる**学習活動を位置付けています。これにより，**生徒の地理的な見方や考え方の補充・深化・統合が図られ，より多面的・多角的な考察ができる**ようになります。

中学校 数学科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　文字を用いた式を使って命題が成り立つことを考え，数学的な表現を用いて説明することができる。

⇒ **思考力，表現力の育成**

□　**学年**　　第２学年
□　**単元名**　式の計算
□　**本時の目標**　　連続する２つの奇数の和について成り立つ性質を，文字を用いた式を使って一般的に説明することが必要であることを理解するとともに，その方法について考えることができる。
□　**学習の流れ**（10 時間目／全 13 時間）※文字を用いた式を使った説明の１／２時間目

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　既習事項を確認する。	・偶数，奇数，倍数，連続する二つの奇数などについて，文字を用いた式の表し方を確認する。視覚的にイメージしやすくするために，図も用いて確認する。	
2　成り立つ性質を予想する。 ・８の倍数です。 ・４の倍数かも…。	・連続した二つの奇数の和について成り立つ性質を予想させ，他の場合についても，「予想した性質が成り立つかどうか」と問うことで，考えをゆさぶる。	
連続した２つの奇数の和が４の倍数になることを説明しよう。		
3　説明の方法を検討する。 生徒Ａ「たくさん計算して，確かめます。」 生徒Ｂ「文字式を使って説明すればいいと思います。」 生徒Ｃ「図を使って説明します。」 生徒Ａに対して…「たくさん計算しても，全ての場合を確かめることにならないと思います。」 生徒Ｃに対して…「図だけで，全ての場合を説明することができますか。」	・具体的な数や図だけを使っても，４の倍数になることを確かめることはできるが，一般的な説明にはならないことから，文字を用いた式を使った説明の必要性に気付かせる。	
4　４の倍数になる理由を文字式や図を使って考える。	・連続する二つの奇数が2n+1，2n+3と表されることを確認する。 ・各自で４の倍数になる理由を考えさせる。	・文字式や図を用いて表現したり，その意味を読み取ったりして，命題が成り立つことを説明することができる。 〔数学的な見方や考え方〕 （ノート，行動観察）
5　考えを交流する。 生徒Ｂに対して…「これなら全ての場合が言えそうです。でも，(2n+1)＋(2n+3)=4n+4となることで，どうして４の倍数と言えるのですか。」 生徒Ｄ「Ｃ君の図と文字式を使って考えました。」 生徒ＢとＤの考えを関連させて …「Ｄ君の図を見ると，4n+4が４の倍数になることが分かりやすいです。」		
6　文字を用いた式を使った説明の方法と意味を確認する。	・4n＋4が４の倍数になる理由を，文字式と図を関連付けて確認し，文字を用いた式を使った形式的な説明の方法を理解させる。 ・本時は，文字を用いた式を使った説明の導入なので，説明の方法を理解することに重点を置く。次時では，本時の説明を基に，自分で文字を用いた式を活用することができるようにする。	・文字を用いた式を使った説明の必要性と意味を理解している。 〔数量や図形についての知識・理解〕 （行動観察，発言，自己評価表）
7　本時の活動を振り返る。 8　家庭学習を確認する。	・本時のねらいに即して自己評価を行わせる。 ・本時の内容に関する課題を提示する。	

言語活動の充実

言語活動の充実

指導のポイント

生徒の思考・判断を促す問題提示の工夫をする

結論を示した問題提示

「連続した２つの奇数の和が４の倍数になることを説明しよう。」

予想 ⇒

結論を予想させる問題提示（容易に結論を見いだせる）

「連続した２つの奇数の和について考えよう。」
例　１＋３＝４
　　３＋５＝８
　　５＋７＝12

数値の工夫 ⇒

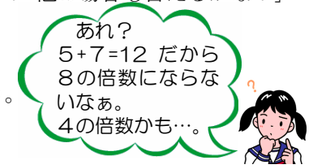
結論を予想する際に思考，判断させる問題提示

「連続した２つの奇数の和について考えよう。」
例　３＋５＝８
　　７＋９＝16
　　11＋13＝24

Ｔ「これらに共通する性質は？」
Ｓ「８の倍数だと思います。」
Ｔ「本当にそう言える？ 他の場合も言えるかな？」

■　最初に結論や解決方法を提示するのではなく，**生徒の思考を促し，判断させるような問題提示の仕方を工夫**しましょう。

■　問題の数値を工夫することで，結論を導くためには一般的な説明が必要であることに気付かせ，**文字を用いた式を使った説明の意味**を理解させましょう。



文字式と図を関連付けて考えさせ，説明し合わせる

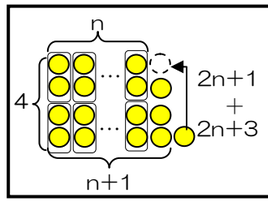
■　まず，連続した二つの奇数の和が（2n+1)＋(2n＋3)と表せることを確認し，なぜ，４の倍数になるのか，文字式や図を使って**各自の考えを説明**させましょう。

■　そして，「4n＋4が４の倍数になる理由」を，互いの説明を基に，**文字式と図を関連付けて考えさせ，説明し合わせ**ましょう。

互いの説明を関連付けて再思考させることで，生徒は，図をイメージしながら自分の考えを整理することができ，徐々に根拠を明らかにし筋道立てて考え，自分のことばで説明できるようになってきます。

私は文字式を使って考えました。
なぜ，４の倍数になるのかと言うと
（2n＋1）＋（2n＋3）＝4n＋4
となり，４の倍数に４をたすと４の倍数になるからです。

生徒Ｂの説明



文字式と図で考えました。
4n＋4 が４の倍数になることを図を使って説明します。
4n＋4 は図で表すと，4（n＋１）と表せることが分かります。
だから，4n＋4 は４の倍数になります。

生徒Ｄの説明

「なぜ，４の倍数になるのか，図を基に考え，説明してみよう。」

生徒Ｂと生徒Ｄの説明を関連付けて

Ｄ君が説明したように，●を１つ動かすと，４つずつの束が（n＋１）個になります。だから，（2n＋1）＋（2n＋3）は４の倍数になることが分かります。
式でも，4n＋4＝4（n＋１）と表されるから，４が（n＋1）個あるということなので，４の倍数になると言えます。

生徒Ｄの説明に対して

Ｄ君の説明は，式と図を関連させているので，4n＋4 と 4（n＋１）が等しいことがよく分かりました。
4n＋4 だけでは４の倍数になることを最後まで説明したことにならないので，式を 4（n＋１）と表さなければいけない理由も分かりました。

■　聞く側の生徒には，**自分の考えと比較**しながら聞かせ，４の倍数になる理由が納得できたかということを**振り返らせ**ましょう。聞く視点も明確になり，話す側，聞く側の相互の学習内容の理解が深まります。

新学習指導要領では

数学的活動の一つとして，「数学的に説明し伝え合う活動」を例示

○　今回の改訂では，目標に「数学的活動を通して」の文言が加えられ，数学的活動の一つに**「数学的に説明し伝え合う活動」**が示されています。この活動により，論理的に考え，表現する力をはぐくんでいきます。

○　学習活動２，３では，文字を用いた式を使った説明の必要性に気付かせます。学習活動５では，思考の過程と判断の根拠を説明し合う活動を取り入れています。数の性質を**式や図を用いて考え，図を基に説明し合わせる**ことで，自分の考えを深化させ，**根拠を明らかにし筋道立てて考え，説明する**ことができるようになります。また，文字を用いた式を使った説明の意味とよりよい説明の方法を理解することができます。

中学校 理　科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　回路の違いとオームの法則に着目して，実験の結果を分析して解釈し，表現することができる。

⇒ **思考力，表現力の育成**

□　**学年**　　第２学年

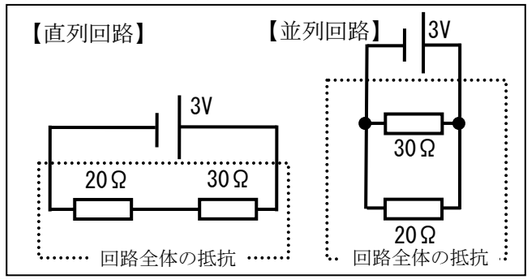
□　**単元名**　電流の性質

□　**本時の目標**　複数の抵抗器を直列や並列につないだ時の回路全体の抵抗と個々の抵抗との関係を見いだすことができる。

□　**学習の流れ**（１０時間目／全１０時間）

《前時までの学習内容》

複数の抵抗を直列や並列につないだ場合，回路全体の抵抗はどのようになるかを予想し，実験方法や手順を示した実験計画書を作成させ，全体交流を行った。



学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　本時の学習課題を把握する。 複数の抵抗器を直列につないだときと，並列につないだときの回路全体の抵抗の大きさは，一つ一つの抵抗の大きさと比較してどのようになるのだろう。		
2　実験の準備をする。	・前時までに生徒が作成した実験計画を読ませて，実験の方法や手順，実験上の注意点を確認させる。 ・班で役割分担を行わせ，直列回路，並列回路の両方の実験を実施させる。	
3　実験する。 ○　直列回路と並列回路のそれぞれの実験を実施し，実験結果を記録する。	・直列回路，並列回路，それぞれにおける電流計，電圧計の回路へのつなぎ方に留意させる。 ・それぞれの電流，電圧を測定した後，表にデータを記録させ，回路全体の抵抗をオームの法則を使って求めさせる。	
4　考察する。 ○　課題と実験結果をもとに考察を行い，結論をノートに書く。（個→班） ○　他の班と交流する。 ○　全体で話し合う。	・結果を分析して解釈させ，直列回路，並列回路における回路全体の抵抗のきまりを予想と照らし合わせて考察させる。 ・各班説明者２名を残して，他班の説明を聞き，考察内容について討議させる。（途中で交代）	・結果を活用して，直列回路，並列回路における回路全体の抵抗のきまりについて考察し，自らの考えを導き表現している。〔科学的な思考・表現〕（ノート）
5　新しい課題に対して，結果を予想し，実験で検証する。	・直列回路，並列回路にそれぞれ新たに10Ωの抵抗を追加した場合の回路全体の抵抗の大きさを導いた結論を用いて予想させた後，実験で検証させる。	
6　本時のまとめと次時の予告		

言語活動の充実

指導のポイント

実験結果を分析，解釈して見いだした結論を使って，新しい課題について予想させる

■　**実験結果を「表」に整理**させ，それぞれの回路における回路全体の抵抗のきまりを見いださせます。

直列回路

抵抗器の種類	20Ω	30Ω	20Ωと30Ω
電流	0.150A	0.100A	**0.060A**
電圧	3.0V	3.0V	3.0V
全体の抵抗	20Ω	30Ω	**50Ω**

抵抗を直列につなぐと電流は流れにくい部分をそれだけ長く通過することになるね。

並列回路

抵抗器の種類	20Ω	30Ω	20Ωと30Ω
電流	0.150A	0.100A	**0.250A**
電圧	3.0V	3.0V	3.0V
全体の抵抗	20Ω	30Ω	**12Ω**

抵抗を並列につなぐと電流が流れる道筋が増えるので抵抗が小さくなるね。

◆「直列回路」の考察

抵抗器を直列に接続すると回路を流れる電流は0.060Aになり，抵抗器が一つの時より減った。また，回路全体の抵抗は計算すると50Ωになった。実験の結果から直列回路では回路全体の抵抗は，それぞれの抵抗の和になるといえる。

（$R = R_1 + R_2$）※＿＿…結果（根拠）　＿＿…結論

◆「並列回路」の考察

抵抗器を並列に接続すると回路を流れる電流は0.250Aになり，抵抗器が一つの時より増えた。また，回路全体の抵抗は計算すると12Ωになった。実験の結果から並列回路では回路全体の抵抗は，それぞれの抵抗よりも小さくなると言える。

（$R < R_1$，$R < R_2$）※＿＿…結果（根拠）　＿＿…結論

結論を使って考えると

直列回路

抵抗器の種類	**10Ω**と20Ωと30Ω
電流	
電圧	3.0V
全体の抵抗	

直列回路の場合は，10Ω増えて，60Ωになると思う。電流は0.060Aよりもきっと少なくなると思う。

結論を使って考えると

並列回路

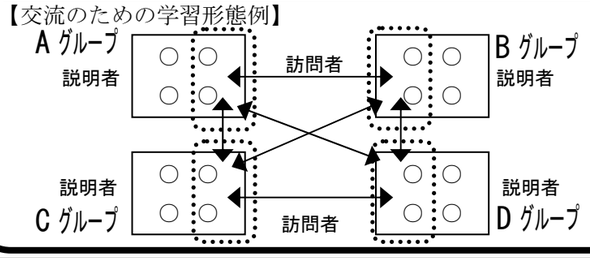
抵抗器の種類	**10Ω**と20Ωと30Ω
電流	
電圧	3.0V
全体の抵抗	

並列回路の場合は，一番小さい10Ωよりも小さくなると思う。電流は，0.250Aよりも増えると思う。

■　考察後，見いだした結論を使って，新しい課題に対して予想をさせます。その際，その予想が正しいことを**再度，実験により検証**させることで，**結論を科学的な知識として定着**させることができます。

考えを説明させる機会を作るために学習形態を工夫する

【交流のための学習形態例】



各班２名程度，説明者を残し，他の班へ説明を聞きに行かせます。そして，**自らの実験結果や結果から見いだした結論と照らし合わせて**説明内容について討議させます。

説明においては，**回路図**や**表**を用いて，説明させます。

新学習指導要領では

問題を見いだし，観察，実験を計画したり，観察，実験の結果を分析し解釈したり，科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を重視

○　今回の改訂では，生徒に思考力，表現力を育成するために，観察，実験を計画する場面で検証方法を討論したり，データを**図，表，グラフなどの多様な形式に表して分析して解釈**し，**結果について考察したことを説明したりする**機会を充実することが求められています。

○　そのため，本時では，複数の抵抗を直列,並列につないだ際の回路全体の抵抗について，実験結果を**表に整理し，分析し解釈させて結論を見いださせています。**また，その**結果を説明させる学習活動**を設定するとともに，**見いだした結論を活用**させて**新しい課題に対して予想をさせる活動**を位置づけ，思考力，表現力を育成することを目指しています。

中学校 音楽科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　感じ取ったことと音楽を形づくっている要素〔共通事項〕を関わらせながら，表現したい自分の思いや意図をもつことができる。
○　音に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら，表現を工夫することができる。

⇨ **思考力，判断力の育成**

□　**学年**　　第２学年
□　**題材名**　表情豊かに歌おう「早春賦」
□　**本時の目標**　　歌詞の内容や曲想を味わい歌唱する。
□　**学習の流れ**（１時間目／全２時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　本時の学習内容の提示 ○　「早春賦」を斉唱し，曲に親しむ。	情景を思い浮かべながら歌おう	
言語活動の充実 **２　知覚・感受** ○　歌唱しながら感じ取ったことと曲の特徴を関連付けてワークシートにまとめる。 ○　各自が感じ取ったことをグループ内で交流する。	・旋律の抑揚，拍子，リズム等が生み出す曲の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す雰囲気を感受させる。 ・感じ取ったことと〔共通事項〕を関連付けてまとめさせる。 ・根拠を基にして，感じ取ったことを発表させる。	・曲の特徴を感受し，それらの働きによって生み出される雰囲気を感じ取っている。〔創意工夫〕（ワークシート）
３　歌唱表現 ○　曲の特徴を理解し，表現したいイメージをもちながら斉唱する。	・感じ取った曲の雰囲気や歌詞の内容を基に，表現したいイメージを膨らませる。	

□　**本時の目標**　　曲にふさわしい表現を工夫する。
□　**学習の流れ**（２時間目／全２時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　本時の学習内容の提示	曲にふさわしい表現を工夫しよう	
言語活動の充実 **２　歌唱表現の工夫** ○　表現したいイメージになるよう工夫する。 ○　グループ内で，各自の考えを意見交流し，それを基に表現を工夫する。	・工夫した表現を焦点化するため，強弱に焦点を絞って工夫させる。 ・二部形式についても理解させ，曲の形式を生かした歌唱表現を工夫させる。 ・実際に歌って試しながら，イメージした表現になるように工夫させる。	・強弱に着目し，それらの働きによって生み出される雰囲気を感じ取りながら音楽表現を工夫している。〔創意工夫〕（行動観察） ・曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。〔技能〕（観察）
３　歌唱表現 ○　ふさわしい表現を工夫しながら，思いや意図をもって歌う。	・録音した歌唱を聴かせ，歌詞の情景，旋律の抑揚や強弱とのかかわりについて感じ取らせる。	

指導のポイント

表現したい思いや意図をもたせるため，ワークシートを工夫する

■　**感じ取ったことと音楽を形づくっている要素〔共通事項〕を関連付ける**ことによって，生徒が曲の特徴をとらえる助けになり，自分の考えを整理しやすくなります。

＜「早春賦」ワークシート例＞

感じ取ったこと	曲の特徴
１　曲を聴いて，感じたことやイメージしたことを書きましょう。 おどりたくなる感じがして春が来たのがうれしい気・・・	２　どのようなところからそう感じたのかを書きましょう。 （**ヒント**　旋律・拍子・リズム・速度　強弱・歌詞など） ８分の６拍子がおどりたく・・

⇨

表現したいイメージ
あたたかい春が早くきてほしいと待っている気持ち。

表現の工夫にかかわる〔共通事項〕を絞って提示する

■　生徒に表現を工夫させる際に，**工夫させたい〔共通事項〕を明確に提示**しておきます。その際，**なぜそのように工夫したいのかといった根拠を述べさせる**ことが大切です。

また，歌唱では，歌詞の内容を感じ取らせ，歌詞と音楽とが影響し合って楽曲としての表現が生み出されることに気付かせることが大切です。

【発表例】

歌い始めは，だんだん音が高くなっているので，それに合わせてだんだん大きくしたい。
根拠（旋律）　　**工夫（強弱）**

春なのに冬のような寒さに堪えている様子が書かれているので，２回目の
根拠（歌詞の内容）
「時にあらずと声も立てず」は，息をひそめるようにｐｐで終わりたい。
表現したい思い　　**工夫（強弱）**

【留意点】pp　ff　dim.などの音楽の用語や記号を扱うときには，知識として理解させるだけでなく，実際に歌って試すなど，体験を通しながら工夫させましょう。

新学習指導要領では

音楽に対するイメージ，思い，意図などを相互に伝え合う活動を重視

○　今回の改訂で，表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容〔共通事項〕が新設されました。この**〔共通事項〕を手掛かりとして，音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受したり**，**音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解したりする**などの活動を通して，そのよさや特質を感じ取り，思考・判断する力の育成を目指しています。

○　**言葉によるコミュニケーションを取り入れることによって，音によるコミュニケーションを一層充実させる**ことが大切です。生徒が音楽に関する言葉を用いて，自己のイメージや思いを伝え合ったり，他の生徒の意図に共感したりすることができるような活動を取り入れます。そうすることによって，仲間とともに創意工夫して表現する喜びを味わうこと，人によって様々な感じ方があることに気付き，生徒一人一人の音楽に対する価値意識を広げることにつながります。

中学校 美術科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　自分の価値意識をもって批評し合い，作品の見方や感じ方を深めることができる。

⇒ **思考力，判断力の育成**

□　学年　　第３学年

□　題材名　　キミならどれを選ぶ？

□　本時の目標　総合的な学習の時間の発表を収録したＤＶＤのジャケットにふさわしいデザインを造形的な視点から選ぶことができる。

□　学習の流れ　（１時間目／全２時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　本時のめあてを確認する。 作品を選んだ理由を分かりやすく説明しよう	・「何だろう？面白そうだな」という場の設定を工夫する。	
2　効果的に表すための基礎的・基本的な知識及び技能について確認をする。	・色彩から受ける印象と配色の効果，イメージに合ったレタリング，レイアウトの工夫などの視点を提示する。	
3　参考作品を鑑賞し，作者の表現意図を考えながら自分のイメージに合った作品を選ぶ。 ○　フリップボード ２枚から３枚に自分の考えをまとめる。 ○　班内で順に自分の考えを伝え合い，見方や感じ方を広げ，相互に学びを深める。 ○　数名が全体で発表する。	・個々にDVDのジャケットの完成見本を手に取らせ，イメージを具体化させる。 ・そのデザインに込められた思いを感じ取らせ，造形的な視点で，気付きや考えたことを整理させる。 ・友だちとの交流を意識して書かせる。 ・キーワードで書かせる。 ・根拠を明らかにして発表させる。	・色彩，レタリング，レイアウトの工夫など，造形的な視点に着目して選んだ根拠を明確にしながら作品の見方や感じ方を深めている。 〔鑑賞の能力〕 （発表内容，ワークシートの記述）
4　本時の学習を振り返り，まとめをする。 5　次時の学習を知る。	・選んだデザインについて，造形的な視点から新たに気付いたことをふまえながらまとめさせる。	

言語活動の充実

指導のポイント

〔共通事項〕で分析させる

■　〔共通事項〕を活用し，**「形や構成の工夫について」「色彩の工夫について」「イメージについて」の３つのポイントで**作品を分析させてみましょう。生徒は，作品を分析的にとらえることができるとともに，言葉にすることで，自分の感じ取ったことや考えを整理することができます。

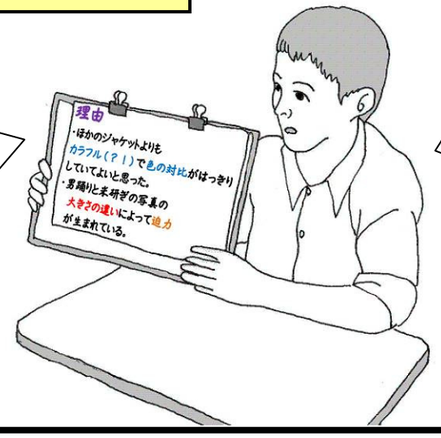
理由
- **ほかのジャケットよりも カラフル（色彩豊か）で色の対比がはっきりしている。**
- **男踊りと米とぎの写真の大きさの違いによって迫力が生まれている。**

「相手に分かりやすく」「キーワード」を意識させる

■　自分の考えや思いを友だちに伝えることを意識しながら，フリップに簡潔にまとめさせます。**形や構成，色彩などを意識させながら「相手に分かりやすく」**まとめさせます。また，感じ取ったことや考えたことなどを**「キーワード」で書かせる**ことで，自分の考えを整理することができ，相手にも伝えやすくなります。フリップを活用した鑑賞をとおして美術科における思考力をはぐくみ，表現における発想や構想の能力，創造的な技能を高めることに繋ります。

「フリップボード」を使ってみよう

「フリップボード」を使用して発表することで，**「かく（書く・描く）力」「話す力」「聞く力」が高まります。**



フリップ作成のポイント
- ○　相手に見えやすいように文字の大きさは５cm程度。
- ○　途中で書き足すことも可能。

新学習指導要領では

〔共通事項〕の視点から生じたイメージを大切にして鑑賞することを重視

○　今回の改訂では，〔共通事項〕を設け，「Ｂ鑑賞」において，**説明したり批評したりする**等の言語活動の充実があげられています。

○　本事例では，イメージに合うデザインの作品を選ぶ活動の中で〔共通事項〕に示された形や色彩，材料などを意識させ，作品から受けるイメージを分析的にとらえさせることとしています。そうすることによって生徒は自分なりの思いや考えをもつことが容易となり，選んだ理由を説明したり批評したりする活動もスムーズに進めることができます。

中学校 保健体育科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　自分やチームの学習課題を見付けることができる。
○　自分やチームの学習課題に応じた練習方法を工夫することができる。

⇒ **思考力，判断力の育成**

□　学　　年　　第１学年
□　単　元　名　　球技「ゴール型　バスケットボール」
□　本時の目標　　①　目指す内容（動きや運動の仕方）の映像と自分たちの実態を比較させ，解決すべき課題を見付け，課題に応じた練習方法を選ぶことができる。
②　チームの課題の解決に向けて，自らの考えを述べるなど，積極的に話合いや練習に参加できる。

□　学習の流れ（５時間目／全 10 時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　本時の目標を確認する。	チーム課題を解決する練習方法を考えよう。	
言語活動の充実　個人思考	○　模範となる映像と自分やチームの実態との違いから課題を見付けさせ，その内容をワークシートに書き出させる。 ・ボール操作やボールを持たない時の動きに注目させる。	
2　課題を確認する。　集団思考１	○　見付けた違いから導き出される課題を発表させる。 ・ボール操作の精度を高める。 ・視野を確保する。 ・空いたスペースを利用する。 ・コミュニケーションをとる。　など	・課題を見付け，課題に応じた練習方法を選んでいる。〔思考・判断〕（ﾜｰｸｼｰﾄ・発言）
3　練習方法を考える。　集団思考２	○　効果的だと予想される練習方法を話し合わせる。 ＊　施設や用具等を有効に活用するよう指導する。 ・デフェンスを少なくしたパスゲームをする。 ・パターン化した作戦を繰り返し練習する。 ・ゴールを複数にしたタスクゲームをする。　など	
言語活動の充実　4　課題練習をする。　試　行	○　話し合った練習方法を試行しながら，効果的な練習方法へと修正させる。 ・安全に留意させる。	・自らの考えを述べるなど積極的に話合いや練習に参加しようとしている。〔関心・意欲・態度〕（行動観察・発言）
5　本時の活動を振り返る。　ま と め	○　効果的だと考える練習方法をワークシートにまとめさせる。 ・各チームで発表させる。	

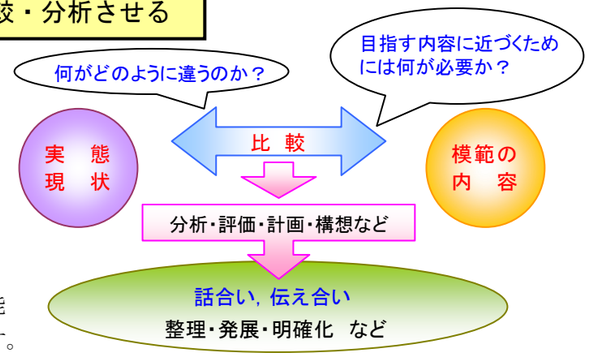
指導のポイント

「観る」ポイントを提示して，映像と比較・分析させる

■　映像との「比較・分析」から課題を見付け，その解決について互いの考えを伝え合うことで，自らの考えや集団の考えを整理・発展させます。

❗映像を「見る」から「観る」へと変えます。そのため，「観る」ポイントを明確に示しましょう。

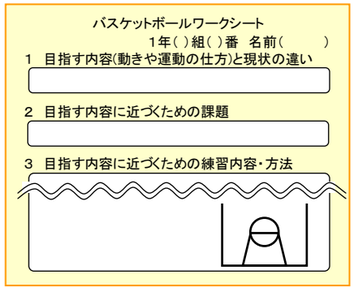
※　課題解決のための思考と試行の反復が，技能の定着・向上や学習活動の促進につながります。



言葉や図によって考えを整理させる

■　個人の考えを整理したり深めたりする上で，ワークシートが大きな役割を果たします。また，次の時間につなげるためには，自分やチームで考えたことを書き残しておくことも大切です。

※　ワークシートへ詳細に記述させることが「言語活動の充実」ではありません。ポイントを絞った話合いができるような項目にしたり，図で表させたりするなどのワークシートの工夫が大切です。



生徒の実態や各領域の特性を踏まえた単元計画

●　毎時間この授業展開を行うわけではありません。各領域及び内容のねらいを達成するためには，**基本的な技能の「習得」**に時間を要することも考えられます。生徒の実態及び各領域の特性を踏まえた**単元計画を立て**，最も効果的な時間に実施することが大切です。

●　生徒は，この手法**「比較分析」**を身に付け，自然に使うようになります。このことでドリル的な学習であっても，アドバイスの時間を取り入れることで，思考力等が深まることが期待されます。

❗ 体育の授業では，他教科と比べ自然発生的な言語活動が展開されます。授業が盛り上がれば盛り上がるほど，生徒は無意識にたくさんの言葉を発しています。この言葉の質を高めることがコミュニケーション能力の育成や生徒間の肯定的な人間関係を構築します。

新学習指導要領では
互いに話し合う活動を通して論理的思考力を育成

○　新学習指導要領解説には，「球技の学習に積極的に取り組み，フェアにプレイすること，分担した役割を果たすことや，**話合いに参加することなどに意欲をもち**，自己の健康や安全に気を配るとともに，技術の名称や行い方などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。」と示されています。

○　本事例では，筋道を立てて練習や作戦を考え，改善の方法などを**互いに話し合う活動**などを通して論理的思考力をはぐくむことを目指しています。

❗ 指導内容の精選を図ったり，話合いのテーマを明確にするなどして，体を動かす機会を適切に確保することが大切です。

話合いの時間を長く取ることが「言語活動の充実」ではありません。

中学校 技術・家庭科（技術分野）の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　機能と構造について，様々な制約条件の中で，よりよいアイディア（最適解）を生み出すことができる。

⇒ **思考力，判断力の育成**

□　**学年**　　第３学年

□　**題材名**　わたしのものづくり

□　**本時の目標**　　使用目的や使用条件に即して，自分の製作品に必要な機能と構造を工夫することができる。

□　**学習の流れ**（３時間目／全 12 時間）

言語活動の充実

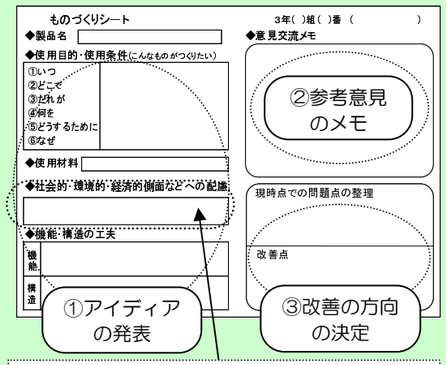
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　前時の振り返り ○　各自が自分の構想について確認する。	・　ワークシート（右図「ワークシートの工夫（例）」）と製作図を用意させ，自分の構想を確認させる。 ※　<u>ワークシートの左側半分と製作図は，前時までに作成（作製）させておく。</u>	
2　本時の学習内容 ○　本時の目標を知る。 ○　機能と構造を検討する際の視点を再度確認する。	製作品に必要な機能と構造について，グループ内で検討し，よりよいアイディアを生み出そう。 〈機能の検討〉 ・　使用目的や使用条件を満足する形状，寸法，使いやすさなど 〈構造の検討〉 ・　製作品の形状，材料や加工法との関連付け，使用時に加わる荷重を考えた材料の使い方，組合せ方や接合の仕方など	
3　機能・構造の検討 ○　製作図を用いて，グループごとに意見交流を行い，現時点での各自の構想の問題点を明確にし，改善の方向を決定する。	・　各グループで検討する際，話し合いのルールを確認し，教具を支援的に利用させる。 **＜ワークシートの活用＞** ・　使用目的や使用条件を明確にさせながら，各自の構想におけるアイディアをグループ内で順番に発表させる。（①） ・　グループ内での発表を聞いて，友達の発表と比較したり，評価してもらったりしながら，参考意見についてメモを取らせる。（②） ・　意見交流の中で明らかになった自分の構想の問題点を明確にし，改善の方向を決定させる。（③）	・製作品の使用目的や使用条件を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから材料，使いやすさ及び丈夫さなどを比較・検討した上で，製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを決定している。 〔生活を工夫し創造する能力〕 （ワークシートの記述，行動観察）
4　本時のまとめと次時の予告 ○　本時の目標を振り返る。 ○　家庭学習の視点と次時の予告を聞く。	・　製作品に必要な機能と構造について，自分の考えが整理できたかを確認する。 ・　製作品のイメージが，使用目的や使用条件を満足しているか確認してくるように伝える。 ・　次時は，本時の検討を基に，製作図を修正することを伝える。	

指導のポイント

構想の検討を深めるために，ワークシート，学習形態，教具を工夫する

使用目的や使用条件に即して，製作品に必要な機能と構造について，よりよいアイディアを生み出すために十分な検討を行っていますか？
〔・教師の簡単なアドバイスのみで終わっている。
・キットにある製作図をそのまま使用している。〕

ワークシートの工夫（例）



※　持続可能な社会の構築のための視点として，社会的，環境的，経済的側面からも検討することが大切です。

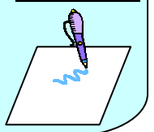
＜社会的側面＞
この材料を使用することが社会にどのような影響を与えるのかなど

＜環境的側面＞
使用場面だけでなく破棄する場合も含めた環境に対する負荷はどうかなど

＜経済的側面＞
使用材料や製作品の大きさが作業時間や価格等の制約条件を満たしているかなど

教具の工夫（例）

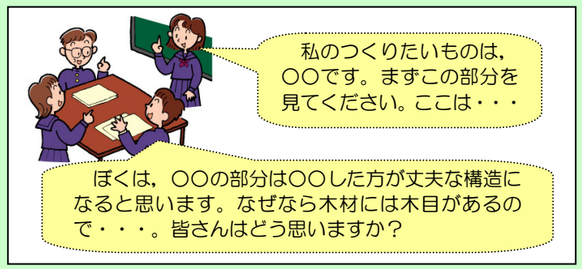
○　製作図をディジタル化しパソコン画面上に表示すれば，ペン機能を使って発表や検討ができます。



○　製作図をラミネート加工すれば，水性ペンを使って発表や検討ができます。

学習形態の工夫（例）

○　３～４人の小グループで，一人一人が**製作図**を用いて，アイディアを発表させる場を設けましょう。
○　結論を出すのではなく，多様な考えを交流させる話し合いであることを明確にしましょう。
○　既習の言葉や概念を使って表現させましょう。



○　意見交流後，自らの製作品に適したものを，各自に決定させましょう。

※　活動は，生徒まかせにするのではなく，教師が適切に働きかけをすることが大切です。

※　<u>製作図は，等角図，キャビネット図，第三角法で表示することが考えられます</u>。
（作業時間の関係で，構想を検討する場合はアイディアスケッチを活用することも考えられます。）

新学習指導要領では

言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりする活動を重視

○　技術分野の指導については，**<u>生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりする</u>**などの学習活動を充実する必要があります。
○　本事例では，自分の考えを整理し，実際の製作を行う前に課題を明らかにするとともに，**<u>よりよいアイディアを生み出せるよう</u>**，**<u>製作図を適切に用いて，構想を検討</u>**させ，**<u>目的や条件に応じて，機能と構造を工夫する能力を育成する活動</u>**を位置付けています。

中学校　技術・家庭科（家庭分野）の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　**食生活の問題点を改善するために献立を工夫することができる。**

⇒ **思考力，判断力の育成**

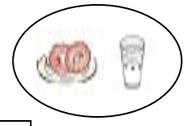
□　**学年**　　第２学年

□　**題材名**　これからの食生活

□　**本時の目標**　自分の食事内容をよりよくするために，自分なりに改善した献立を再検討し，さらに工夫して改善を加えることができる。

□　**学習の流れ**（３時間目／全４時間）

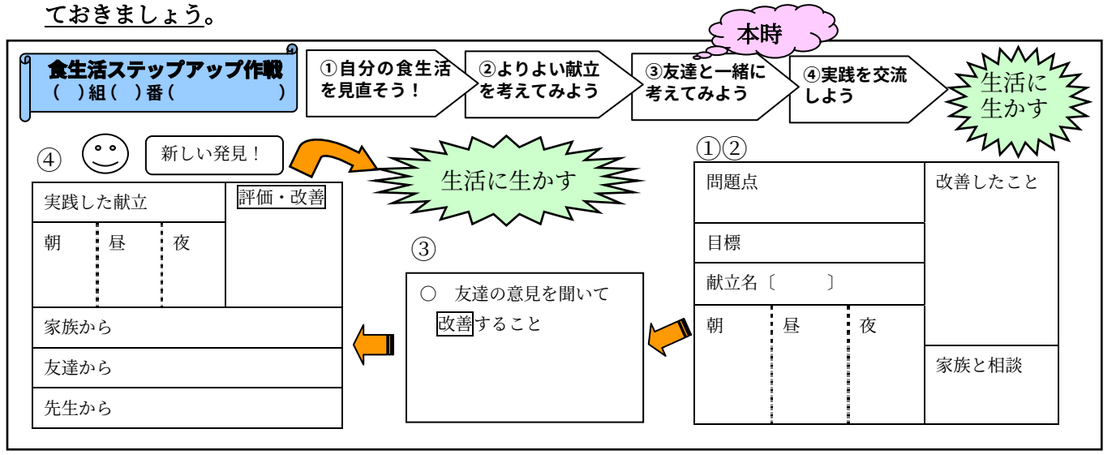
言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　前時までの学習を振り返る。 ○　ワークシートの記入内容を確認する。	・「自分の食事調べ」から課題（問題点）の発見，改善方法，改善した献立，家族から聞いてきた意見などがワークシートで整理できているか確認させる。	
2　本時の内容を確認する。	実践に向けて，献立の再検討をしよう。〔相互評価をする。〕	
3　班内で自分なりに改善した献立を説明し合う。 ○　説明のポイントをワークシートで確認する。	・改善の根拠を明らかにして，順序立てて相手に伝えることを指示する。ワークシートや自分の調べた資料を使い説明させる。 ◆「自分の食事調べ」から気付いた問題点 ↓ ◆献立作成に向けての目標設定 ↓ ◆課題（問題点）解決のための改善点（家族の意見も含めて）	
4　互いの献立を評価する。 ○　評価する観点を確認する。 ○　ワークシート（改善した献立）を見たり，説明を聞いたりして，評価やアドバイスを相互評価用紙に記入し，説明する。	・相互評価用紙に記入することを確認する。発表によりこれまでの既習事項を含め，献立に必要な観点を確認する。観点に添って話合いをさせる。 【観点】 ・中学生の１日に必要な食品群別摂取量のめやすを満たす計画になっているか。 ・栄養のバランスを考えた食品の組み合わせを工夫しているか。 ・主食，主菜，副菜，主食の組み合わせになっているか。 ・旬の食材や地域の食材を取り入れているか。 ・その他〔家族の好み，色取り　など〕	・自分なりに改善した献立を説明し，相互評価により実践に向けての献立の再検討し，さらに工夫して改善することができる。〔生活を工夫し創造する能力〕（ワークシート，相互評価表）
5　改善した献立の見直しをする。 ○　相互評価用紙を参考に見直しを行う。	・他の生徒からの相互評価や意見メモを整理・検討し，家庭で実践できるように変更や付け加えなどを行わせる。	
6　本時のまとめと次時の確認をする。	・本時の目標が達成できているか評価させる。 ・家庭実践の手順（家族に相談→実践→評価・反省→次の課題）を確認し，次時に実践報告会を行うことを伝える。	

指導のポイント

考えの根拠を整理できるワークシートを作成し，書く活動を取り入れる

■　自分の献立の何が問題なのか分析させ，どのように**検討**し，何を**根拠**として考えたのか書いて整理させます。また，<u>解決する過程で使用した資料は，図表などを用いて分かりやすくまとめさせ，蓄積させておきましょう</u>。



考えや意見を出し合い，思考を深めるための話合いを設定する

話し合う時に，「献立について話し合いましょう」というだけの指示になり，気付いたことを出し合うだけの話合い活動に終わることがあった。

工夫 ⇒ 話合いの「**目的**」と「**観点**」を，話し合う前に生徒に伝えて始める。

■　生徒に，**話合いの目的**「自分なりに考えた献立を再検討し，よりよく改善すること」を明確にもたせ，**観点ごとに**献立の良さを評価したり，アドバイスを伝えたりするようにします。**観点**は<u>教科のねらいを達成するもの</u>であることに留意しましょう。

【グループにおける話合いの例】

司会：<u>話合いの目的</u>は，「自分なりに考えた献立をみんなで意見を出し合い再検討し，よりよい献立にすることです。それでは，<u>一つ目の観点である１日に必要な食品群別摂取量は達成されているかどうか</u>について確認します。みなさん達成されていますか？それでは，<u>二つ目の観点である栄養のバランス</u>について検討していきたいと思います。まず，○○さんの献立についてどうですか？

Ｂ　：○さんの献立は，無機質の中でも鉄分は十分ですが，カルシウムが不足しているのではないかと思います。大根のすりおろしなどにしらす干しを入れたり，昼食に牛乳を１本入れたりするとよくなると思います。

新学習指導要領では

言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動を充実させることを重視

○　各分野の指導において配慮することの一つとして，<u>生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりする</u>などの学習活動を充実することが示されています。

○　本時の学習活動３では，解決の根拠を示したワークシートや資料を使い説明します。また，学習活動４では，<u>新たな情報や知識，献立をさらによくするための示唆</u>を得ることができます。このような指導を充実させることで，<u>課題に対して様々な角度から考える思考力</u>，<u>考えたことを基に解決を図る判断力</u>，判断した結果を<u>的確に創造的に表すことのできる表現力</u>がはぐくまれます。

中学校 外国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　書き手の意見に対して賛否とその理由を示すことができるよう，書き手の考え方をとらえながら読むことができる。

⇨ **思考力の育成**

□　学年　　第３学年

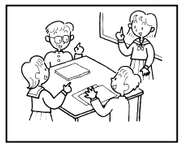
□　単元名　Unit 5 Cell　Phone - For or Against

□　本時の目標　　意見文を読んで内容を把握し，それに対する自分の意見を話すことができる。

□　学習の流れ（１０・１１時間目／全１１時間）

《前時までの学習内容》中学生が携帯電話をもつことについての意見を読み取る

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　あいさつをする。 ２　めあてを確認する。	・本時では，意見文の内容を理解するだけではなく，後で意見文に対する自分の意見を発表できるように読むことが目標であることを明確に示す。 １　意見文を読んでその内容を理解しよう。 ２　書き手の意見に対して，自分の考え（賛否とその理由）を発表しよう。	
３　意見文「住むなら田舎か都会か」を読んで，内容を理解する。  ４　自分の意見（賛成・反対）とその理由を考える。	・読むときの視点を与える。 ポイント１　相手の意見（最も伝えたいこと）を読み取る。 ポイント２　その理由（根拠）を読み取る。 ・表やマッピングを使って，相手の意見と理由をメモさせる。 ・メモは英語で，キーワードで書くように指示する。 ・自分は賛成か反対かを明確にさせる ・表やマッピングを使って，考えを広げさせる。 ・理由を選び，順序を考え，番号を付けさせる。	・書き手の意見を批判的に読むことができる。〔外国語理解の能力〕（ワークシート）
５　ペアで意見を交換する。 （１）意見の交換 （２）アドバイス （３）意見の修正 ６　考えを全体で発表する。	・自分の意見を明確に述べ，そのあと理由（根拠）を述べさせる。 ・複数の理由（根拠）を述べる場合には，順序を考えて筋道を立てて話させる。 ・アドバイスを活かして，意見を修正させる。 ・聞き手に正しく伝えるための視点を押さえる。 ・発表者の意見がわかりやすいかどうか，論理的であるかどうか，アドバイスを述べ合わせる。 ・聞き手としての視点も示す。	・自分の意見を理由を付けて論理的に話すことができる。〔外国語表現の能力〕（活動の観察，ワークシート，振り返りカードの記述）
７　自分の意見を書く。 ８　本時の振り返りをする。	・読み手を意識した書くことの視点を押さえる。 ・めあてについて，振り返りをする。	

指導のポイント

読んだ後に自分の意見を表現することを意識させて，意見文を読ませる

■　意見文を読むときに，後でこの意見文に対する自分の意見を表現することを意識させて読ませましょう。このことによって，読み手として主体的に考えながら内容を理解することができるようになります。

内容理解を目的に読ませる ⇨（工夫）⇨ 意見文に対する自分の意見を表現すること意識させて読ませる

「読むときの視点」や「メモの取り方」を明示し，内容を把握させる

■　「読むときの視点」や「メモの取り方」等を明示し，書き手の意見とその理由が明確になるような読ませ方をさせましょう。書き手が伝えたいことを論理的に理解することができるようになります。

読むときの視点

１　相手の意見（最も伝えたいこと）
２　その理由（根拠）

メモの取り方

１　キーワードを英語でメモする。
２　表やマッピング等を活用する。

相手の意見	理由
countryside	1 mountains 2 clean air 3 kind people

自分の意見	理由
city	1 easy to move 2 many places to play 3 many hospitals

自分の意見を整理させるために表やマッピングを活用させる

■　書き手の意見を整理するのに活用したものと同じ表やマッピング等を活用することによって，相手の意見とその理由と比較対照しながら，自分の意見とその理由を明確にさせましょう。そうすることによって，学習場面５，６において，自分の意見を明確に表現することができるようになります。

新学習指導要領では

書き手の意見などに対して，賛否やその理由を示すなどすることができるよう，考え方などをとらえながら読む言語活動を重視

○　今回の改訂では，読むことの指導において，話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえながら読む言語活動が新たに示されました。これは，「読むこと」の活動であっても，単に知識等を得ることにとどまるのではなく，**「読むこと」を通して得た知識等について，自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結びつけることが大切である**ことを示しています。

○　本事例では，**「書き手の意見とその理由をとらえながら読む言語活動」**を位置付けています。**話す活動と結び付けた読む活動を設定し**，その読む活動において，**書き手の意見を整理するために表やマッピングなどを活用させること**によって，書き手の意見を適切に理解することができるようになります。

中学校 道　徳 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　登場人物の心の動きに着目して，自分の意見や考えの根拠を明確にし，ねらいとする道徳的価値に気付き，深く感じたり考えたりすることができる。

⇒ **思考力，判断力，表現力の育成**

□　学　　年　　第２学年

□　主　題　名　　家族愛（内容項目４－(6)）

□　本時のねらい　　一冊のノートを見て，だまって祖母と並んで草をとる「ぼく」の心について考え，家族のかけがえなさに気づき，その一員としてかかわり合っていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

□　資　料　名　　「一冊のノート」（文部省　道徳教育推進指導資料４　平成５年）

□　学習の流れ

言語活動の充実

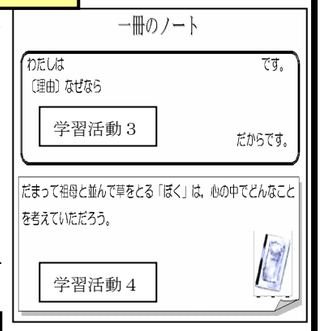
学習活動	指導上の留意事項	評価の観点（評価方法）
1　「一枚の写真」から想起する。 2　祖母に対する「ぼく」の思いをとらえる。 ［発問と生徒の反応例］	・指導者の家族写真を提示し，多様な感じ方や考え方を引き出しやすい雰囲気をつくる。 ・祖母に対して冷たく接し，自己中心的な考えでいる「ぼく」を共感的にとらえさせる。	
○「問題集をなくされた『ぼく』はおばあちゃんに対してどんな思いを抱いただろう。」 ・もういい加減にしてほしい。　・どうせ忘れるのだから，余計なことはしないでほしい。		
3　外で祖母を見かけた「ぼく」の思いを，自分自身と向き合いながら考える。	・「ぼく」の心の揺れについてワークシートで考えをまとめさせ，自分の考えの根拠を明らかにさせる。 ・ネームーカードを活用し，板書で整理することで，自他の考えを比較しやすくする。	・「ぼく」の思いを自分自身と向き合いながら考えることができる。〔自分自身のものの見方や考え方等の表現〕（ワークシート）
○「『ぼく』は，外でおばあちゃんを見かけて『知らん顔』をして通り過ぎたとき，どんな思いだっただろう。」 ・恥ずかしくて，自分のおばあちゃんだなんて言えない。 ・なんか自分が友だちから笑われてるみたいで，嫌だな。帰ったら，変な格好で出歩かないよう言ってやろう。		
4　一冊のノートを読んだ「ぼく」の心の動きを考え，深める。	・家族を心から愛する祖母の思いを感じ取った「ぼく」についてじっくり考えさせる。 ・話合いの中で，自分や他の生徒の様々な考えに触れ，更に深めさせることで，ねらいとする道徳的価値を自分自身のこととしてとらえさせる。	・一冊のノートを読んだ「ぼく」の心の動きを考え，自分の考えを基に話合い，それを通して考えを深めることできる。〔自己や他者との対話による思考・判断〕（ワークシート，行動観察，発言）
◎「だまって祖母と並んで草をとる『ぼく』は，心の中でどんなことを考えていただろう。」 ・今までひどいことをしてしまって，ごめんなさい。　・これからも長生きしてね。 ・赤ちゃんのころからおばあちゃんはかわいがってくれていたんだね，ありがとう。 ・もうあんなひどいこと言わないからね。　・今度は，ぼくがおばあちゃんを支えていくからね。		
5　「一枚の写真」を見ながら教師の説話を聴き，学習をまとめる。	・導入で活用した写真を提示し，指導者が家族への思いを語る。 ・自分の家族とのつながりについて振り返らせながら，学びをまとめさせる。	

指導のポイント

自分の考えを書いたり，まとめたりするワークシートを活用する

■　ワークシートなどに**書く活動を通して**，自分自身のものの見方，考え方，感じ方などを確かめたり，まとめたり，記録に留めたりすることができます。また，それらをもとに今までの自分を振り返ることができます。

■　学習活動３では，「ぼく」の心の揺れについて，自分自身と向き合わせ，自分の**考えの根拠を確かめ**させます。学習活動４では，ねらいとする道徳的価値に迫るため「ぼく」の心の動きに着目し，**考えをまとめ，今までの自分を振り返らせ**ます。

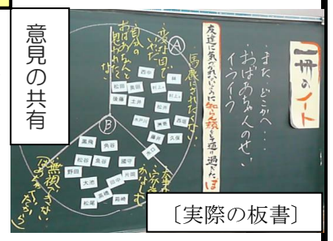


生徒の思考を深める手掛りとなる板書を生かす工夫をする

■　板書は，生徒の思考を深める重要な手掛かりとなります。思考の流れや順序を示すだけでなく，生徒の思考の違いや多様さを**対比的，構造的に示す工夫**をしましょう。

■　学習活動３の板書では，ネームカードを活用して，生徒に個人の**意見とその根拠を明確**にさせ，お互いの意見を共有化させています。視覚的に分かりやすく整理したり，キーワードを生かしたりするなど板書を生かす工夫をしましょう。

意見の共有



〔実際の板書〕

自分の考えを深めさせるための話合いの機会を充実する

■　話合いは，話すことと聞くことが並行して行われます。二人一組の対話や小集団による話合いなどで，生徒が**主体的に考え，その考えを深められる**ような場面を設定しましょう。

■　学習活動４では，グループで一冊のノートを読んだ「ぼく」の心の動きについて，自分と他の生徒の意見は，どこが同じでどこが違うのかなどの視点を基に話し合わせ，生徒の考えを深めさせます。資料中に描かれている登場人物の生き方や他の生徒の意見を手掛かりに，**ねらいとする道徳的価値に気付き，深く感じたり考えたりできるような話合いの機会を充実**させましょう。

〔実際の話合い〕

新学習指導要領では

自分の考えを基に表現する機会を充実させ，考えを深める指導の工夫を重視

○　道徳の時間のねらいは，道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成することです。今回の改訂では，そのねらいに迫るために，個々の生徒や学級の実態に応じて，**自分の考えを基に書いたり討論したりするなど表現する機会を充実**し，自分とは異なる考えに接する中で，自分の考えを深め，自らの成長を実感できるよう工夫することが求められています。

○　本事例では，ワークシートを活用した書く活動を通して，生徒の考えを確かめさせたり，まとめさせたりすることにより，ねらいとする道徳的価値を**自分のこととしてとらえ，振り返らせ**ます。また，生徒の思考を深める手掛りとなる板書の工夫や自分の考えを深めさせる話合いの機会を設定することにより，**自分自身の価値観を確認したり，自らの価値観を見つめ，見直す**ことができます。

中学校 総合的な学習の時間の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　様々な情報を関連付けて考え，筋道立ててまとめることができる。

⇨ **思考力，表現力の育成**

□　学　　年　　第３学年
□　単　元　名　　「地域の課題を見付けて探究しよう」
□　単元の目標　　地域の「ひと・もの・こと」についての探究的な学習を通して，地域社会のすばらしさや問題点，自分とのかかわりなどを学び，探究の過程や課題設定に応じた解決方法を協同的に身に付け，地域の豊かな社会の創造を目指し解決しようとしたり，自分自身の将来のことを考えたりする。
□　単元の計画　（全３５時間）

学習活動	学習活動
研究テーマを決めよう（５）　１課題の設定 ・ウェビング，グループでの協議，教師との対話を通じて，グループごとに研究テーマを設定する。 例：「ポイ捨てを減らす第一歩」，「福祉って何だろう」，「我がふるさとの文化を伝承する」等 ・学習計画を立てる。	**自分の考えを発表しよう(5)**　４まとめ・表現，１課題の設定 ・仮説の検証結果をまとめ，報告する。 ・自己評価や相互評価により，問題点を基に改善策を考えたり今後の取組を明らかにしたりする。 例：清掃活動は効果があったが，ポイ捨ての意識はどのように変えていくのか。
的確な情報を集めよう（７）　２情報の収集 ・研究テーマを踏まえて情報を収集する。 例：ポイ捨ての現状と原因について現地調査とアンケート調査を行う。	**地域全体に取組を広げよう(7)**　２情報の収集，３整理・分析 ・地域全体の課題として取り組むために，情報を収集・整理し計画を立て，実践する。 例：地域全体のポイ捨てを減らす計画を立て実践する。 ・実践後に取組内容を振り返る。
情報を基に仮説を立て検証しよう（９）　３整理・分析 ・情報を整理する。例：分布図や円グラフの活用。 ・情報を関係付けて仮説を立てる。 例：「ポイ捨ての多い場所をきれいに掃除して，ごみ箱も置けば，ポイ捨てはなくなるだろう。」 本時 ・実践し，検証する。 例：清掃活動等を行い，２週間ごみの廃棄状況を調査する。	**自分の考えをまとめよう(2)**　４　まとめ・表現 ・これまでの取組を基に「市への提言書」としてまとめる。 ・学習活動全体を振り返り，自分の将来の生き方や自分と地域とのかかわりについて考えまとめる。

□　本時の目標　　情報を関係付けて考え，仮説を立てるができる。
□　学習の流れ

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　本時の学習課題をとらえる。 これまで収集した情報を関係付けて考え，仮説を導き出そう。		
２　グループごとに，情報を関係付けて仮説を立てる。	・情報を整理したものを基に，各自が考えたことを出し合い，模造紙に記入させる。 ・考えたことを基に，仮説「○○すれば，■■になるであろう。」という内容に整理させる。	・研究テーマについての地域の課題に関する様々な情報を関係付けて考え，仮説を立てている。〔学習方法〕（発表内容，行動観察，振り返りの記述内容）
３　仮説を紹介し合う。 ４　仮説を見直す。 ５　振り返りをする。	・仮説を設定した理由を述べさせる。 ・仮説と設定の理由のつながりに着目させて，他のグループの仮説を評価させる。 ・「これまで収集した情報を関係付けて仮説を立てることができたか」について振り返りをさせる。	

指導のポイント

情報を関係付けて考え，まとめる

個人で考える

■　収集し整理した情報を，各自が関係付けて考えるようにさせましょう。

各自で，調査１と調査２から明らかになったことを関係付けて考える。
「調査１の□□と調査２の△△から，・・・ということを考えた。」

集団で考える

■　模造紙等に各自が考えたことを書かせ，グループ全員が各自の考えを見えるようにさせましょう。
■　出された考えの中で，問題解決の手立てになる内容に線を引かせ，それらを基に仮説を立てさせましょう。仮説の立て方について，教科の既習内容を関連させましょう。

仮説　○○（問題解決の手立て）すれば，
■■（問題解決後の姿）になるであろう。

＜グループ活動での模造紙の内容例＞

○班　研究テーマ**「ポイ捨て減らす第一歩」**
「人は，どういう場所にどういう気持ちでごみを捨てるのか」

【調査から考えたこと】
班員A　調査１のいつもごみが捨てられている「川のそば」と調査２の「みんな捨てているのでこれくらいはよい」から，人は，すでに汚い所では，自分も捨ててよいという気持ちになるのではないかと思う。
班員B　班員C　調査１の「ごみ箱はない」と調査２の「捨てる場所がない」「持って帰りたくない」から，人は，ごみ箱などの捨てる場所が近くにない場合，ごみを持って帰るのが面倒になり，ポイ捨てをするのではないか。
班員D・・・・・・・・

【○班の仮説】
ポイ捨ての多い場所をきれいに掃除して，ごみ箱も置けば，この場所でのポイ捨てはなくなるだろう。

留　意　点

これまでに収集した情報（調査１「現場の状況調査」，調査２「アンケート調査」）を基に，本時で考えを明らかにするために，前時では，情報を整理しておく必要があります。教師は，教科の既習内容との関連を図りながら，様々な整理・分析の方法を確認して，収集した情報に適した方法を選ばせ，情報を整理させます。

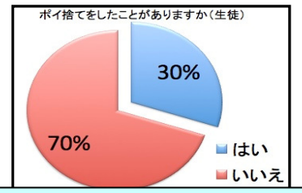
＜収集した情報を整理した例＞

■調査１（現場の状況調査）・・・分布図や表にして整理

ごみの廃棄状況

	大型ごみなどの不法投棄	ポイ捨て
種類	家電・家具・家庭ごみなど	ペットボトル・カン・菓子袋など
場所	・車を駐車できるところ ・すぐに道の脇に投げ落とせるところ	・道の側の草むら ・川のそば（いつも捨ててある） ・ごみ箱はない

■調査２（アンケート調査）
・・・グラフにして整理，ランキング付



質問：「はい」の人は，なぜポイ捨てをしたのですか？
回答：①みんな捨てているのでこれくらいはよいと思った　50%
②捨てる場所が近くになかった　30%
③家まで持って帰りたくなかった　20%

新学習指導要領では
言語により整理したり分析したりして考え，それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視

○　今回の改訂では，問題の解決や探究的な活動の過程において，**他者と協同して問題を解決しようとする学習活動**や**言語により整理したり分析したりして考え，それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動**を重視しています。

○　本事例は，研究テーマに沿って収集した情報を整理・分析して考えたことを材料に，協同で仮説を導き出していく活動です。これにより，**論理的に考えたり，表現したり**する力が身に付きます。
今後，生徒は，自分たちが導き出した仮説を検証するために，**主体的に**学習活動に取り組んでいきます。

中学校 特別活動 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　自分と他者の意見の違いに気付き，他者の意見を尊重しながら，学級目標を考えることができる。

⇨ **思考力，判断力の育成**

□　**学年**　　第１学年

□　**議題名**　「学級目標を決めよう！」〈学級活動（１）〉

□　**本時の目標**　　学級の一員として，自らの考えをもち，他者の意見も尊重し合いながら，学級目標を決めることができる。

□　**学習の流れ**（全１時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　議題を確認する。 「学級目標を決めよう！」 ～自分の考えをもち，仲間の意見も尊重し合いながら，よりよい学級目標にしよう～	・自分の考えを理由とともに明確にもち，他者の意見を尊重しながら，学級の意見をまとめていくことを確認する。	
２　個人の意見を決定する。 (1) 個人の考えを付せん紙に記入する。**ブレーンストーミングを活用** (2) 個人の考えを整理し,決定する。**ＫＪ法を活用**	・付せん紙に目指したい学級像を記入させる。 ・記入した付せん紙で関連しているものをグルーピングし，グループへタイトルをつける。 ・グループにしたものの中から一つ選択し，その理由を整理させる。	
３　班での意見を決定する。 (1) 班で個人の意見を出し合う。 (2) 班としての学級目標の案を決定する。	・簡潔に理由も述べるように指示する。 ・個々の意見で関連しているものをグルーピングし，班での学級目標の案を決める。また，その理由を整理させる。	・自分の考えをもち，他者の意見を尊重しながら，話し合うことができる。〔集団や社会の一員としての思考・判断・実践〕（発表，ワークシート）
４　学級目標を決定する。 (1) 各班からの意見を発表する。 (2) 学級目標を決定する。	・各班の意見と理由を分かりやすく発表させる。 ・各班の意見を個人でワークシートに記入させる。 ・各班の意見をグルーピングし，よりよい学級目標を決定させる。	
５　振り返りを行う。	・振り返りシートに記述させ，自分と他者との関係性の中での振り返りがあれば，発表させる。	

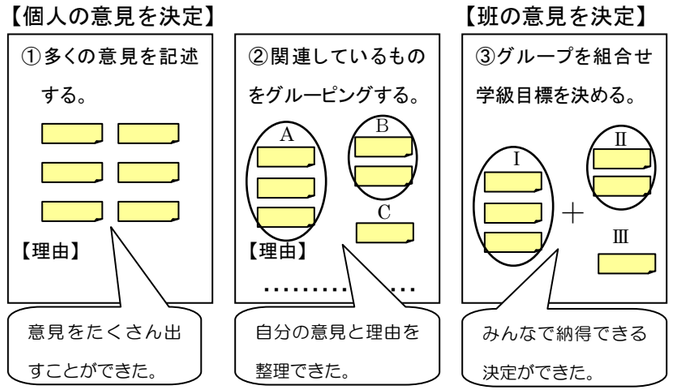
言語活動の充実

指導のポイント

活発に意見交流できるための工夫をする

■　個人思考や班討議の際に，ブレーンストーミング等の技法を用いることによって，生徒はより多くの意見を出し，自分の考えももてるようになります。

ブレーンストーミングのルール
・どんな意見でもよい。
・より多くの意見を出す。
・他者の意見を批判しない。



班討議の様子

意見を整理するためにワークシートを活用する

■　互いの意見をワークシートに整理することで，自分と他者の考え，自分の班と他の班の意見を比較し，同じ意見でも理由の違い等があることに気付くことができます。このことは学級目標を達成するための具体的な活動にもつながります。

学級目標を決めよう！

	目指したい学級像	理由
自分		
Aくん		
Bさん		
Cさん		

	各班からの学級目標（案）	理由
1班		
⋮		

新学習指導要領では

集団としての意見をまとめるなどの話合い活動を充実

○　今回の改訂では，学級の中で相互に望ましい人間関係を形成しながら，学級の一員として有意義な集団生活を送ることを目指した**「よりよい生活を築くための諸活動の充実」が追加**されました。このことは，同じ学級の生徒が相互に望ましい人間関係を形成しながら,学級の一員として有意義な集団生活を送ることができるように諸活動を充実させることを目指しています。そのための活動の一つとして，学級の生徒が意見の異なる人と議論して協同的に問題解決する態度を身に付け，**集団としての合意を作り上げるなどの話合い活動の充実**が上げられています。

○　本時の学習活動２～４の指導では，よりよい学級目標を決定するために生徒が相互に意見を出し合い，学級にとって最も良い決定を行うことができるよう話合い活動の充実を図っています。